

## 国際生物多様性の日記念シンポジウムを開催

国際生物多様性の日である5月22日(日)に、早稲田大学小野記念講堂において、85名の参加者を得て開催しました(主催:独立行政法人森林総合研究所・早稲田大学環境総合研究センター、後援:林野庁、環境省)。



2011年は国際森林年にも当たることから、国際生物多様性の日の今年のキーワードは「森林の生物多様性」です。それにちなみ、本年のシンポジウムは、「地球の恵み 森林の生物多様性—その価値と危機—そして希望—」と題し、「生物多様性の価値」「それが直面する危機」「今後の森林管理のあり方」の三つの観点から、以下の講演がなされました。(講演要旨

は以下に掲載してあります:

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/event/2011/20110522tayousei/documents/proceeding.pdf>

### 「森林の生物多様性の価値」

尾崎研一氏・滝久智氏(森林総合研究所)

生物多様性を保全する意味や、それが人間にもたらす恩恵、いわゆる「生態系サービス」について研究成果による実例を交えてわかりやすく説明して頂きました。



### 「脅かされる熱帯林の生物多様性—その現状と保全へのアプローチ—」

北山兼弘氏(京都大学)

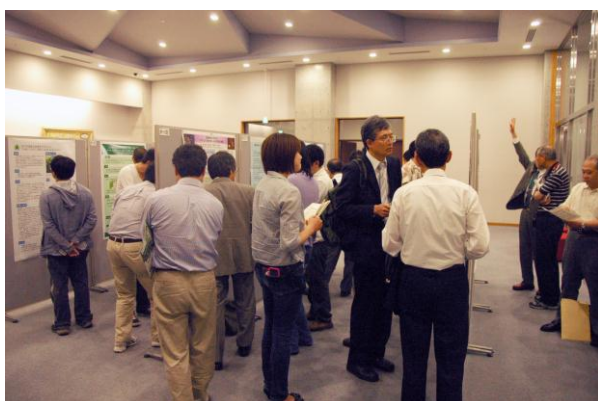
東南アジアに於ける森林や生物多様性減少の実態と、その解決策のひとつである環境に影響の少ない森林伐採による効果を、マレーシア・サバ州での詳しい研究成果をもとに講演して頂きました。

「生物多様性保全のための順応的森林管理」

藤森隆郎氏(元森林総合研究所・国民森林会議)

森林の生物多様性や生態系サービスを保全し、一方では林業を持続的に行っていくために、森林構造や発達段階の知見を十分取り入れ、流域単位での森林計画と管理が必要であることを講演して頂きました。

講演後、森川靖氏(早稲田大学)、中静透(東北大学)、崎野健輔氏(林野庁)から、コメントをいただき、生物多様性を保全する重要性と、それを担保する森林管理の必要性、その実践について述べて頂きました。



会場には生物多様性に関する研究のポスター発表も行われ、来場者の関心を呼んでいました。